

●2009年度第3四半期決算説明会（IR）質疑応答議事録

日時 : 2010年1月29日（金）18:30～19:15
場所 : 富士通汐留本社 24階大会議室
説明者 : CFO 執行役員上席常務 加藤 和彦

質問者A

Q. 3Qの営業利益は、計画に対してどの程度上振れたのか、セグメント別に教えてください。

A. 全セグメントで計画を上回り、全体では、200億円程度計画を上回りました。4Qの不透明感に伴う業績の未達リスクを少しでも軽減するために、4Qからの平準化を全社的に進め、4Qから3Qに前倒しで計上された売上が多くありました。また、営業費用についても再度厳しく吟味しました。携帯電話では、想定以上のコストダウンを推進することができました。デバイスソリューションの電子部品については、ほぼ想定線でした。計画を最も大きく上回ったのは、カーオーディオやナビゲーションシステム関連の収益が含まれている「その他」セグメントです。

Q. 3Qの営業利益は計画を上回りましたが、年間の営業利益計画900億円に変更がないのはなぜでしょうか。保守的に見ているということでしょうか。

A. 3Qでこれだけ計画を上回れば、4Qの計画においてサービスで多少の下方修正があったとしても、全体で900億円は上回るように思われるかもしれませんが、しかし、スーパーコンピュータ関連の予算が縮減されたため、当社のスーパーコンピュータ関連収益も悪化します。その悪化分を4Qに織り込みました。そういったものも踏まえて、年間の営業利益は変更しませんでした。

Q. デバイスソリューションの営業利益の内訳を教えてください。

A. デバイスソリューションの営業利益の内、LSIは10億円強の黒字、電子部品がその残りです。

Q. デバイスソリューションの4Qの見通しはいかがですか。

A. 受注は今のところ計画通り入ってきており、4Qを通して恐らく計画を達成できるものと見ています。海外の受注をもう少し積み増すことができれば、その確度は一段と高まると考えています。

3Qは、2009年のクリスマス商戦がかなり厳しい結果になるものと考えていたため、最悪のシナリオを想定しながら経費削減やコストダウンなどを推進してきました。しかし実際には想定していたほど悪い結果にはならなかったため、そうした努力が業績の押し上げ効果に繋がりました。

質問者B

Q. 国内業種別のITの景況感について教えてください。

A. 3Q実績、及び通期見通しについて、業種別にご説明します。産業・流通は、3Qが前年比84%（前回計画：88%）、通期見通しが前年比87%（前回計画：90%）、社会基盤は3Qが前年比98%（前回計画：97%）、通期見通しが97%（前回計画：97%）、金融は前年比92%（前回計画：90%）、通期見通しが89%（前回計画：97%）、公共は

3Q が 127%（前回計画：112%）、通期見通しが 101%（前回計画：101%）、地域は 3Q が 103%（前回計画：102%）、通期見通しが 98%（前回計画：99%）、全体では 3Q が 96%（前回計画：95%）、通期見通しが 93%（前回計画：96%）です。業種別に少し補足しますと、産業・流通は 4Q でのラストスパートを期待していましたが、産業の低迷だけではなく、流通が個人消費の低迷などで、4Q は一段と悪化すると見込み、挽回は難しいということで、今回通期の見通しを下げました。社会基盤は、3Q が計画通り推移したことから、4Q も計画を達成できると考えています。金融は、3Q 計画を達成しましたが、4Q は内部統制関連などを取り込んで少し足りないということで、通期見通しを下げました。公共は、官庁を中心に受注を確実に取り込んだことで、3Q 実績は計画を上回ることができました。地域は、自治体、文教が好調に推移し、民需系の悪化をカバーしているといった状況です。

Q. 金融は 4Q に大きく悪化するということでしょうか。

A. 4Q に大きく悪化するということではなく、上期の悪化を下期でカバーできなかったということです。

Q. ネットワークの足元の状況について教えてください。

A. 国内は NGN 関連が 1Q にピークアウトし、10 年度が底になると考えています。モバイルインフラは、LTE が 10 年度後半に売上寄与してきますが、本格展開は 11 年度以降を見込んでいます。北米は、3Q までは光伝送機器を順調に出荷しています。10 年度は、国内は厳しい状況が続きますが、北米については堅調に推移すると見込んでいます。

質問者 C

Q. 携帯電話の収益が 4Q において悪化する要因は何でしょうか。

A. 08 年度の 3Q は赤字でしたが、4Q は利益がでました。09 年度の 3Q は、新機種を 2 機種発売することで利益がでましたが、4Q は新機種が少ないため売上は減り、開発費もかかるため、損益は悪化すると考えています。

Q. 「全社／消去」が減少すると予想しているアナリストが多いと思いますが、今回増えているのは、スーパーコンピュータの費用が増加するためでしょうか。それとも 09 年度通期の営業利益計画を変更しないために、「全社／消去」を増やしたのでしょうか。

A. 実際に全社費用としてスーパーコンピュータ開発に関する損失引当を行うため、「全社／消去」が増加しました。これでスーパーコンピュータ開発に関する損失引当は終了し、10 年度には損失が残らない形にしました。

Q. 10 年度の海外ビジネスはどのように見えていますか。特に欧州のビジネスは、当面厳しいように思えますが。

A. 英国のビジネスに関しては、1200 人のリストラを行い、来年度に向けた手を打っています。富士通サービスの 6 割を占める英国政府系の大型商談に関しては、それなりに受注は見込み、利益面でも大きく貢献しますが、売上面で高成長は望みにくいと考えています。むしろ、オーストラリアなどで大型のデータセンター商談が出始めており、データセンター需要が高い地域で、今後も投資をしながら商談獲得を目指します。

以上